

令和5年度 授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修  
授業実践研究詳細報告書

学校名	府立佐野高等学校	名前	
-----	----------	----	--

1 学校教育目標（めざす生徒像）

- ・自立心と進取の気概を育成する
- ・フェアなルール感覚を育成する
- ・多文化共生・国際教育を推進する
- ・科学的・論理的に考え行動する人材を育成する

2 令和5年度の校内研究テーマ等

(1) 研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

- ・生徒と教職員と一緒に、授業を組み立てていく授業づくりをめざす。
- ・生徒が学んだことを他の生徒に伝えたいと思う授業づくりをめざす。

②テーマ設定理由

- ・生徒の「身に付けたい力」と教職員の「身に付けさせたい力」を共有することで、「学習内容の定着の促進」や「専門的な内容の実施」をしていきたい。
- ・自分が学んだことを他者に伝えるためには、知識の理解度・話し方・提示方法などの力が必要であり、その力を生徒に育みたい。

(2) 成果指標及び目標値

- ①校内全体研修のアンケート項目の「研修内容が自分の糧となったかどうか」の肯定的意見を80%以上にする。
- ②校内全体研修のアンケート項目の「自分の授業を見直すきっかけとなったかどうか」の肯定的意見を80%以上にする。
- ③相互授業見学のアンケートにおいて、「生徒に身に付けさせたい力」を意識して授業を組み立てている教職員の割合を90%以上にする。

(3) 「(2) 成果指標及び目標値」の達成状況

- ①肯定的意見の割合は第1回から順に、<62.8%→87.9%→96.4%>となり、第1回の結果は回答数の少なさや第1回研修の目標設定がやや不十分などのためか、80%を下回った。しかし、その他の研修では目標値を超える結果となった。
- ②肯定的意見の割合は第1回から順に、<81.8%→78.8%→92.9%>となり、第2回の結果は教科で授業計画を考えた班は肯定的意見が多かったが、複数の教科が混ざって授業計画を考えた班はやや少ない傾向にあった。しかし、そのほかの研修では目標値を超え

る結果となった。

- ③ 1回目の授業見学期間は95.3%、2回目の期間は87.8%となり、平均91.6%となったため、目標値を超えて多くの教職員が意識して授業を行っている結果となった。

### 3 令和5年度の校内研究の取組みについて

#### (1) 研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

- ① 「生徒に身に付けさせたい力」を通して、生徒が達成感を感じる授業づくり  
② 生徒の学習意欲と学力を向上させる授業づくり

#### (2) 具体的な取組み

##### ① 校内チーム「授業・研修情報交換会」の発足

月1回程度、放課後に集まり、年次研修での受講内容の情報交換を行ったり、校内全体研修や授業見学などの企画を立てて運営を行った。

##### ② 校内全体研修の実施（3回）

第1回 7月12日（水） 14:00～15:30

- ・教科混合の5人1班（計9班）に分かれ、Jamboardを利用したワークショップの実施と、指導主事による講演。
- ・本校の「生徒に身に付けさせたい力」とは何かを班ごとに考え、その力が身に付いたと判断できる評価方法を考えた。

第2回 10月5日（木） 14:30～16:00

- ・9月頃に行われた授業見学のアンケートの結果と分析を共有し、教科別の3～5人1班（計10班）に分かれ、ワークシートを利用したワークショップの実施と、指導主事による講演。
- ・班ごとに3つの資質・能力に沿った単元の目標を決めて、3観点に沿った単元の評価規準を考えたあとに、単元中の1時間分について、授業方法（目標、評価基準など）を考えた。
- ・考えるだけではなく、実践とセットであることを強調した。

第3回 12月21日（木） 14:10～15:45

- ・10月頃に行われた授業見学のアンケートの結果と分析を共有し、教科別の5～6人1班（計7班）に分かれ、ルーブリックとワークシートを利用したワークショップの実施。
- ・代表教科の国語と理科それぞれのルーブリックで生徒の成果物を評価し、班の中で評価を確認した。そして、ルーブリックを用いることで、教職員間で評価の統一ができるようになること、および同じルーブリックを用いた場合でも評価にバラつきが生まれることもあるので、作成して終わりではなく、調整をする必要があることを確認した。

##### ③ 授業見学期間の設定（2回）

1回目 9月11日（月）～25日（月）

- ・校内全体研修にて各班が出した9つの「生徒に身に付けさせたい力」を授業テーマ

として、校内チーム「授業・研修情報交換会」が実際に授業テーマに沿った授業を行って、授業見学を実施した。9つの「生徒に身に付けさせたい力」は以下の通り。

「読解力」「自分から発信していく力」「ロジカルシンキング（理論的思考）」  
 「人と違うことを認め、できないことを素直にできないと認めて共有し、補い合う」  
 「問題解決能力」「トラブルを解決していく力」  
 「クリティカルシンキング（批判的思考）」「協調力、臨機応変に対応できる力」  
 「進路を実現する力」

2回目 10月23日（月）～11月13日（月）

・9つの「生徒に身に付けさせたい力」を授業テーマとして、授業担当者全員が実際に授業テーマに沿った授業を行って、相互に授業見学を実施した。また、年次研修を受けている教員は研究授業を行った。

#### 4 取組みの検証

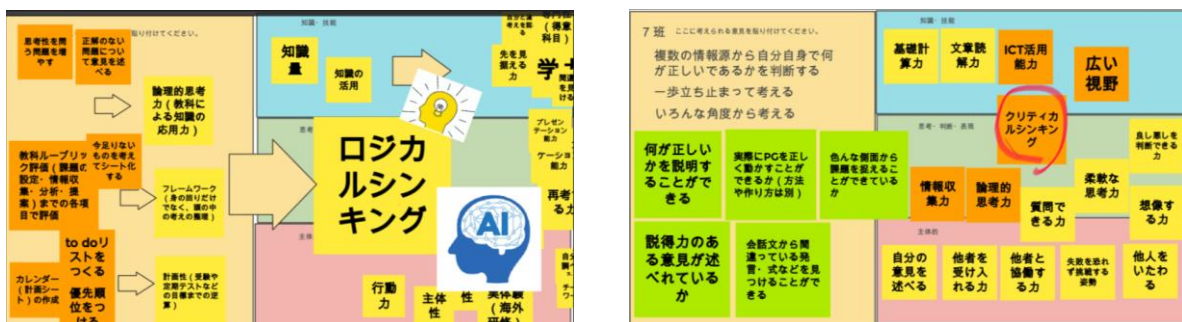
##### (1) 校内研究の成果

###### ①校内チーム「授業・研修情報交換会」

- ・校内全体研修や授業見学の企画を全員で行ったことで、観点別学習状況の評価に対する認識の統一を図ることができた。
- ・指導案の研究・改善のためにチーム内の小グループをつくることで、切磋琢磨できる環境の整備ができた。

###### ②校内全体研修

- ・本校の「生徒に身に付けさせたい力」を改めて言語化することで、全体で目標を意識しやすくなった。
- ・教科内外の実践を聞いたことで、授業の計画案や評価の基準や方法が増え、より一層授業づくりに向かう意識が高まった。
- ・評価の統一性を出すために、教職員間で話し合っってルーブリックを作成したり見直しをしたりする重要性を確認できた。



【第1回校内全体研修より、各班が作成したJamboardの例】

9班 教科：保健 単元：「応急手当の方法とその意義～心肺蘇生法～」

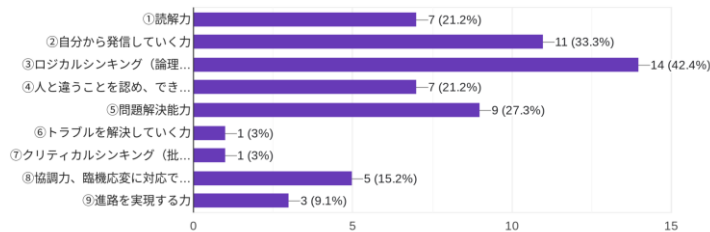
<単元の目標>

\*「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性」より1つ以上選択してください。  
単元の目標は、本来、3つの資質・能力のすべてについて設定する必要がありますが、今回は時間の都合上、1つ以上に絞ります。

選んだ資質・能力に○ (ドキュメントの場合は、選んだ資質・能力以外は削除) 「思考力・判断力・表現力等」	<授業方法>		
状況に応じて必要な応急手当ができる。	授業の目標 ・心肺蘇生法の手順を身につける ・学んだ知識で心肺蘇生法を正しく行うことができる。		
<単元の評価規準> 単元の目標で選んだものに対応する観点について、評価規準を考えてください。 選んだ観点到○ (ドキュメントの場合は、選んだ観点を除く)	授業の評価基準(指標) 観点到○ (ドキュメントの場合は、選んだ観点を除く) 「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」	A評価	B評価
選んだ観点到○ (ドキュメントの場合は、選んだ観点を除く) 「思考・判断・表現」		正しい手順・テンポ・回数でスムーズに心肺蘇生法を行うことができる。	正しい手順で心肺蘇生法を行うことができる。
自分の安全を確保したうえで、正しい手順で応急手当ができている。	教員は何を使うのか (ICT機器、道具など)	あっぱくん・AED・プリント 動画 (パソコン)	
	生徒は何を使うのか (プリント、jamボード、レポートなど)	あっぱくん・AED・プリント	
	どんな活動か (ペア・グループワーク、発表など)	グループワーク	
	評価方法 (振り返りプリント、小テストなど)	実践	

【第2回校内全体研修より、保健体育科のワークシート】

9. 第2回授業見学で実践を考えている「生徒に身につけさせたい力」は何ですか？ (複数回答可)  
33件の回答

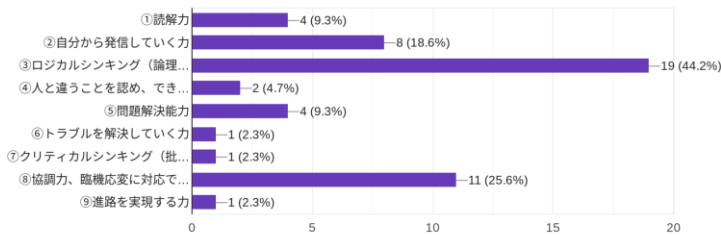


【第2回校内全体研修アンケートより、授業で実践する予定の授業テーマの集計】

③授業見学期間

- ・教科に関係なく、様々な授業を見学することで、指導の方法やICT活用例、生徒主体の活動例、普段とは違う生徒の様子が伺えたので、指導の幅が広がった。
- ・「生徒に身に付けさせたい力」を意識することで、普段より指導方法を工夫し、生徒の力を引き出させるように意識した。

「生徒に身につけさせたい力」  
43件の回答



【第2回授業見学アンケートより、見学が行われた授業にて、実践された授業テーマ】

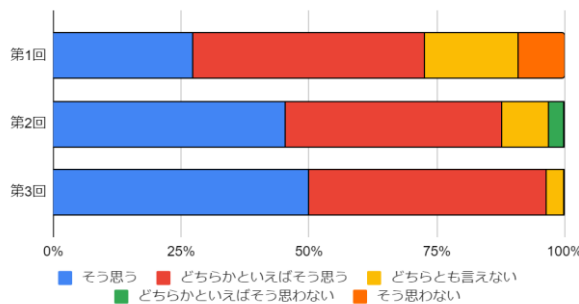
## (2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

1年生の国語における授業の様子より、教職員が目標を明確に示すことで、グループワークにおいて、準備や意見交流、発表がより良いものへとなるように工夫している生徒が多かった。また、互いに切磋琢磨していく中で互いの意見を認め合いつつ、積極的に意見交流をしている姿も見受けられた。

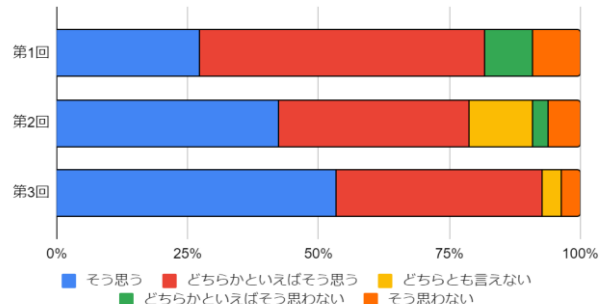
## (3) 教職員の変容（授業改善により教職員が何を学んだか・どのような感想を持ったか）

- ・校内全体研修や授業見学を実施していくにつれて、研修内容を自分自身の授業の中に取り入れようとする考えの教職員が増えていった。
- ・校内全体研修を通じて、自分自身の授業を改善するきっかけになった教職員や見直した教職員が増えていった。

研修内容が自分の糧となった



自分の授業を見直すきっかけとなった



- ・アンケートの記述欄より、授業担当者間で話し合う必要性の再確認や個人での授業の見直しをしようとしている意見も多く、観点別学習状況の評価に関してもとらえ方が変わりつつある意見も見受けられた。しかし、全教職員が3観点による観点別学習状況の評価を経験しているわけではないので、これからの研修内容としては、継続して観点別学習状況の評価のことや目標・指導・評価の一体化、ルーブリックの活用などを内容として扱っていききたい。

### <第2回アンケートより抜粋>

- ・「教科内での打合せの時間をしっかり取る必要性を感じた。」
- ・「考査後から取り扱う教材の目標・規準・基準を再設定し、授業の展開方法を練り直したい。ICT研修やパッケージ研修で紹介された事例を自分の授業にどのように取り入れていくかを考えている。」
- ・「相談しながら授業を考えると心強い。」

### <第3回アンケートより抜粋>

- ・「評価者が誰でも一定になれるような客観的な指標を考えることがポイント」
- ・「ルーブリックを作るときに、評価がバラバラにならないように記載内容における注意などを確認できました。」
- ・「ルーブリックを設定しても人によって差が出ることもあるので、担当者どうしで時間をかけてルーブリックのすり合わせを行う時間を取る必要がある。」
- ・「ルーブリックは生徒の力を想定しつつ作らないといけないことを学んだ。」

## 5 今後に向けて

### (1) 今年度明らかになった課題

#### <校内チーム 「授業・研修情報交換会」>

- ・発足した当初に予定していた情報交換より、校内全体研修や授業見学の企画・運営に時間が割かれてしまい、チームの必要性や目的意識が薄れてしまった。

#### <校内全体研修>

- ・成績処理の時期や考査中に行ったことに関して、時期の見直しが必要となったり、生徒に対する指導・評価方法の実践例や具体例を共有する機会が求められたりした。
- ・第3回において、ワークショップの中でルーブリック作成の機会を設けなかったため、重要性を理解しつつも実践に移せないことが考えられた。

#### <授業見学期間>

- ・「2回分の見学期間それぞれの目的・意義」、「授業見学や授業実践のときに意識してほしい部分」を説明しきれなかった。

### (2) 次年度に向けて

#### <授業づくりチーム・年次研修会の発足>

- ・役割を分けることで目的を明確にしたチームを作る。
- ・授業づくりチームは「校内研修と見学の企画・運営」を担当し、校内研修は比較的落ち着いた時期である7月中旬の夏季休業前に、具体例や実践例を取り入れて実施する。また、授業見学では5月頃と10月頃の教育実習期間に合わせて実施し、目的や見学者と授業者が意識してほしい部分を明確に告知する。
- ・年次研修会は「年次研修での受講内容の情報交換と指導案の研究」を担当し、年4回に分けて情報交換と研究授業の指導案作成を行っていく。

#### <ルーブリックの活用>

- ・評価規準を言語化することで、生徒のパフォーマンス向上をめざしたり、シラバスの見直しや科目担当者での話し合う機会の増加に繋げていったりしていく。また、校内研修は実際に作成するワークショップを取り入れて実施する。

学校名	府立佐野高等学校	名前	
-----	----------	----	--

## 令和5年度 授業実践研究報告書

### 1 令和5年度の目標(テーマ・主題)

- ・生徒と教職員と一緒に、授業を組み立てていく授業づくりをめざす。
- ・生徒が学んだことを他の生徒に伝えたいと思う授業づくりをめざす。

### 2 成果指標及び目標値

- ①校内全体研修のアンケート項目の「研修内容が自分の糧となったかどうか」の肯定的意見を80%以上にする。
- ②校内全体研修のアンケート項目の「自分の授業を見直すきっかけとなったかどうか」の肯定的意見を80%以上にする。
- ③相互授業見学のアンケートにおいて、「生徒に身に付けさせたい力」を意識して授業を組み立てている教職員の割合を90%以上にする。

### 3 「2 成果指標及び目標値」の達成状況

- ①肯定的意見の割合は第1回から順に、<62.8%→87.9%→96.4%>となり、第1回の結果は回答数の少なさや第1回研修の目標設定がやや不十分などのためか、80%を下回った。しかし、その他の研修では目標値を超える結果となった。
- ②肯定的意見の割合は第1回から順に、<81.8%→78.8%→92.9%>となり、第2回の結果は教科で授業計画を考えた班は肯定的意見が多かったが、複数の教科が混ざって授業計画を考えた班はやや少ない傾向にあった。しかし、そのほかの研修では目標値を超える結果となった。
- ③1回目の授業見学期間は95.3%、2回目の期間は87.8%となり、平均91.6%となったため、目標値を超えて多くの教員が意識して授業を行っている結果となった。

### 4 実施日・内容等

月	日	校内研究の実際	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
6	13	第1回ミーティング ・メンバー確認 ・委員会及び全体研修の年間計画確認	
	20	第2回ミーティング ・校内全体研修のテーマについて ・相互授業見学について	

7	6	第3回ミーティング ・校内全体研修に向けて準備 (中テーマや小テーマについて)	
	12	・校内全体研修の準備及び直前確認	第1回校内全体研修(14:00~15:30) 内容:「生徒に身に付けさせたい力」、 その力が身に付いたと判断できる評価方法のワークショップ。
8	29	第4回ミーティング ・相互授業見学に向けて最終確認 ・年次研修の内容などの情報交換	
9	11 ~ 25		第1回授業見学期間 ・委員会のメンバーの授業を見学してもらう。
	15	第5回ミーティング ・相互授業見学の振り返り ・校内全体研修に向けて	
	26	第6回ミーティング ・次回の相互授業見学について ・校内全体研修に向けて	
10	5	・校内全体研修の準備及び直前確認	第2回校内全体研修(14:00~16:00) 内容:授業見学のアンケートの分析結果を共有。評価指標および授業計画のワークショップ。
	13	第7回ミーティング ・校内全体研修の振り返り ・研究授業に向けて(指導案必要)	
	20	第8回ミーティング ・授業見学アンケートについて ・研究授業に向けて(指導案必要)	
10 ~ 11	23 ~ 13		第2回授業見学期間 ・授業担当者全員による相互の授業見学 ・研究授業(10名) ・研究協議会
11	21	第9回ミーティング ・相互授業見学の振り返り ・研究授業のまとめ	
12	7	第10回ミーティング ・校内全体研修に向けて	



	21	・校内全体研修の準備及び直前確認	第3回校内全体研修（14:10～15:45） 内容：授業見学と研究協議会を通して、 生徒に身に付けさせたい力と評価指標の ワークショップ
1	9	第11回ミーティング ・校内全体研修の振り返り ・「今年度の総括」について	
2	16	第12回ミーティング ・「今年度の総括」について	
3	中 旬	第13回ミーティング ・来年度に向けて	「今年度の総括」の共有